

2020. 7. 19 第三主日あかし礼拝

マタイ 11:25-30 「わたしが休ませてあげよう」

聖書

25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。

26 そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。

27 すべてのことが、わたしの父からわたしに渡されています。父のほかに子を知っている者はなく、子と、子が父を現そうと心に定めた者のほかに、父を知っている者はだれもいません。

28 すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

はじめに

毎月第三主日礼拝はあかし礼拝としてささげていますので、今日はコリントの手紙から離れて、マタイ 11:25-30 よりみことばを味わいたいと思います。中でもマタイ 11:28 は有名で、「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」というみことばによって、救いを得た方は多いのではないのでしょうか。重荷を降ろし、軽くされて今週を出発しましょう。

1. 誰への語りかけ？

今も聖書を通してイエスさまのことばは多くの人に届けられています。聖書のみことばは読み手である私たちに語られているものですから、自分への

メッセージとして受け取って頂けたら幸いです。と同時に、イエスさまが語られたとき、それは目の前の弟子であり群衆であり、イエスさまに批判的な当時の宗教家たちであったことも確かなので、誰に語られたのかということは大切な視点です。

そのような視点でこの箇所を見ると、これが弟子に語られたものであることが分かります。文脈としてはマタイ 11:20-30 がひと括りになっていて、前半はイエスさまを受け入れなかった町々への叱責が書かれています。これは単にイエスさまの話を聞かなかったという表面的な話ではなく、イエスさまは神の御子としてこの世に来られ、それを示すために力ある御業をたくさんなさったのに、それを退けたことへの厳しい叱責であり、神のさばきの到来を示す内容だったのです。それは「神の奥義」と言われる霊的な内容で、誰でも悟り得るものではなかったのです。

「そのとき、イエスはこう言われた。天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。」(25 節)。イエスさまは父なる神さまに、神の奥義は人間の知恵によっては悟り得ず、幼子に現してくださいましたことを感謝しています。この幼子が弟子たちのことです。イエスさまと弟子たちは一つであり、それはイエスさまと父なる神さまとの関係性でもあるのです。イエスさまと父なる神さまとの親密な関係が先にあり、その関係性は選ばれた弟子たちにしか分からないと言われたのです。そこには、父なる神さまと御子なるイエスさま、そして選ばれた弟子たちという 3 者の交わりと信頼があるのです。今、聖書を読む私たちが弟子たちに自分を重ねて見るとき、28 節のみことばが新しい光を放って迫ってくるのではないのでしょうか。

2. 疲れた人、重荷を負っている人とは

28 節の「すべて疲れた人、重荷を負っている人」とは誰でしょうか。一般的な意味で言うなら、生きることに疲れた人、人から傷つけられた人、病氣

に苦しむ人、仕事や受験に失敗した人、夫婦や親子関係で悩む人、挫折や自信を失った人など人生の諸課題の重圧に押し潰されそうな人たちが対象と言えます。そのような人がおられたら、「わたしのもとに来なさい。わたしがあなたを休ませてあげます。」とイエスさまが招いておられますから、その招きに答えてイエスさまの前に出て、主の平安と安らぎを経験して下さったら幸いです。

広く人生の問題で悩む人たちへの呼びかけとともに、イエスさまが意識されたのは弟子たちでした。当時弟子たちを始め、人々に重荷を与え疲れさせてしまう人たちの存在があったのです。それがしばしばイエスさまが指摘された律法学者やパリサイ人と言われる宗教家たちです。彼らは旧約の規定を重んじ、その規定を守ることが神さまに従うことであると主張しました。その主張は一面正しいのですが、宗教を規則で縛る不自由なものにしてしまい、規則に従わない者を締め出してしまったのです。締め出された者たちは、神さまの戒めを守れない人たちというレッテルを貼られて、生きることの困難さを抱えることになるわけです。旧約聖書の律法に縛られた息苦しさは、今の私たちの生活の中にも忍び込んでいます。それは「～しなければならない」ということばで表されるように、行いで人を評価しよし悪しが決められてしまう息苦しさと、それが旧約の律法に縛られていた息苦しさと同じものなのです。

今、コロナウイルスへの過剰な反応が一部で問題視されています。感染リスクを避けるための最大限の配慮は必要ですが、自粛警察とかマスク警察ということばに表れているように、社会全体が外出自粛をしなければならないとかマスクを着けなければならないという雰囲気の中で、それをしないことは犯罪人扱いされる傾向があり、恐さを覚えます。実際にマスクを着けないで公園で子どもを遊ばせていた親子に、近所の老人男性が責め寄って来て怖い思いをしたというニュースが流れるほどです。今の感染症についてだけでなく、日常の人間関係の中でも、「～しなければならない」という縛りの中で

苦しんでいる人は多いのではないのでしょうか。人と違う意見や言動が認められない息苦しさがあるように思います。勿論、他者を顧みない自分勝手な主張は戒められなければいけません、すべてが同じ色に染まらなければならないという主張には怖さがあります。

いずれにしても、人が生きることに疲れる理由や生き難さの原因は様々ですが、それらをイエスさまのところに持って行くという選択肢をぜひ加えていただきたいのです。おそらく、そのような選択肢は今まで持っていなかったと思いますが、「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」という道があることを知っていただきたいのです。イエスさまが休む場所を用意して待っていてくださいます。

3. くびきを負う

イエスさまご自身が休み場であるとともに、もう一人に与えられた休み場があります。それが、くびきを負うということです。「わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」(29, 30 節)。くびきを負うことでたましいに安らぎを得るとはどういうことでしょうか。

そもそもくびきとは何でしょうか。くびきは2頭の牛の首を横木で繋ぐ道具で、2頭がより力を合わせて作業に当たることができるための道具です。でもイエスさまは作業効率の話をしているのではありません。2頭の牛はもともとは別々ですから、1頭は右に1頭は左にと思いいいに向かうのを繋げることで同じ方向を向くようにすることが目的です。1頭が右ならもう1頭も右にというように歩調を合わせて進むためにくびきが必要なのです。動物につけるくびきを例にして、イエスさまは人と人の関係もそうあるべきで、お互いに相手に合わせる心がなければ一緒に前には進めません。くびきは自分

の主張を相手に合わせるためのへりくだりの象徴となる道具なのです。くびきを付けられる2頭の牛は、首を垂れて横木を着けてもらうのです。くびきは柔和と謙遜のシンボルです。これを付けることで人間関係にも祝福がもたらされるのです。特にくびきを負った関係が最もよくわかるのが夫婦関係です。夫婦は互いを労わり、相手に自分を合わせる謙遜さが求められます。くびきを着けることの慕わしさを経験したいものです。共に同じ方に向けて歩むことの慕わしさを味わえるように祈ります。

4. たましいの安らぎを

そしてこのくびきは、人間同士に着けるだけの話で終わらず、イエスさまと私たちがくびきによって繋がる時、人間にとって最も平安な安らぎを得ることを示すものです。実はイエスさまも父なる神さまとくびきを負った関係の中に生きておられました。「あなたがもわたしのくびきを負って…」とあり、イエスさまご自身もくびきを負うことの意味を経験しておられたのです。イエスさまの喜びは、父なる神さまのみこころを行うことでした。父なる神さまと一つであることの喜びです。その喜びを私たちにも与えようとしておられるのです。このことをイエスさまは「わたしから学びなさい」(29 節)という言い方で仰いました。別の言い方をしますと「わたしにとどまりなさい」ということです。

私たちがイエスさまのうちに留まり、ともに歩み始めるとき、イエスさまが私たちの重荷や疲れを背負ってくださるのです。自分が重荷を背負っている時は重く感じましたが、イエスさまと一緒に担ってくださっているならその重荷は軽いのです。イエスさまとくびきを着けていることすら苦にならなくなるのです。これがイエスさまと私たちが一つになっているときの平安と喜びです。単に問題課題の重さを軽くする手段としてくびきを負うのではなく、共に生きる、共に歩むことを喜び楽しむためのくびきを経験したいのです。多くの方はそこから来る平安と安息を求めているのではないのでしょうか。イエスさまとともに歩み出す人生へと踏み出そうではありませんか。

まとめ

今日疲れた人、重荷を負っている人はどこに行ってもその疲れと重荷を降ろしますか。イエスさまの下で荷を降ろす道があることを知ってください。そこで荷を降ろすところの安らぎは、世が与えるものとは違います。その平安はイエスさまとくびきを負うことで与えられるものであり、イエスさまが荷と一緒に担ってくださり、いっしょに歩いてくださるところの平安です。イエスさまはいつでも「わたしのもとに来なさい」と招いておられます。誰でもいつでもイエスさまの下に行くなら、「わたしがあなたがたを休ませて上げます」という約束を握ることができます。今週も平安の主が共にいてくださいますように、祝福をお祈りします。